

エゾシカ A 地区（ルシヤ地区）の季節移動調査結果（2年目）

1. 調査概要

- ・斜里町ルシヤ地区において、エゾシカのメス成獣を平成 26 年 6 月に 4 頭、8 月に 2 頭、11 月に 4 頭、計 10 頭生体捕獲し、GPS テレメトリー首輪を装着した。
- ・首輪の測位間隔は、12 月 1 日～翌年 6 月 30 日までが 1 時間に 1 回、7 月 1 日から 11 月 30 日までは 12 時間に 1 回を基本スケジュールとした。
- ・行動圏面積（最外郭法）や測位点の車道からの距離等について、個体別および月別に解析し、考察した。データは平成 27 年 12 月までに取得したものをを用いた。



図 1-6-1. 各個体の捕獲地点

14AD02～05：平成 26 年 6 月 11～14 日捕獲

14AD06～07：平成 26 年 8 月 18 日捕獲

14AD08～11：平成 26 年 11 月 24～29 日捕獲

(16AD01～04：平成 28 年 5 月 10～11 日に追加捕獲、詳細は後述)

2. 結果概要

- ・作業員がヒグマと至近距離で遭遇する、不動化中のシカがヒグマに持ち去られるといった危険な状況は発生しなかった（ただし作業中は威嚇弾装備の散弾銃所持者が護衛）。
- ・首輪を装着したシカの死亡や、首輪の故障・早期脱落などのトラブルはなく、全 10 個体から 1 年以上のデータを得ることができた。
- ・調査対象とした全 10 個体において、夏の生息地と越冬地（ルシャ地区）間の季節移動は認められなかった。
- ・調査期間中の各個体の行動圏面積は 1.6～34.1 km²であった。行動圏面積（通期）が 10 km²を超えたのは 1 個体のみであった。この 1 個体を除く 9 個体は、1 年以上の全追跡期間をルシャ地区内で行動していた。
- ・上記の 1 個体（14AD07） については、季節移動とは判断されなかったものの、平成 27 年 7 月末の 4 日間、羅臼側のルサー相泊地区よりも南側（岬町地区）まで一時的に大きく移動してすぐに戻る行動が認められた。また、2 個体（14AD03、14AD10）については、出産期に利用標高帯を低標高から中標高に変化させるような行動が見られた。
- ・出産期である 6～7 月を除くと、各個体の月別行動圏面積は 0.2～1.8 km²で、ルシャ地区のエゾシカがごく狭い範囲の食物資源に依存して生活していることが明らかとなった。

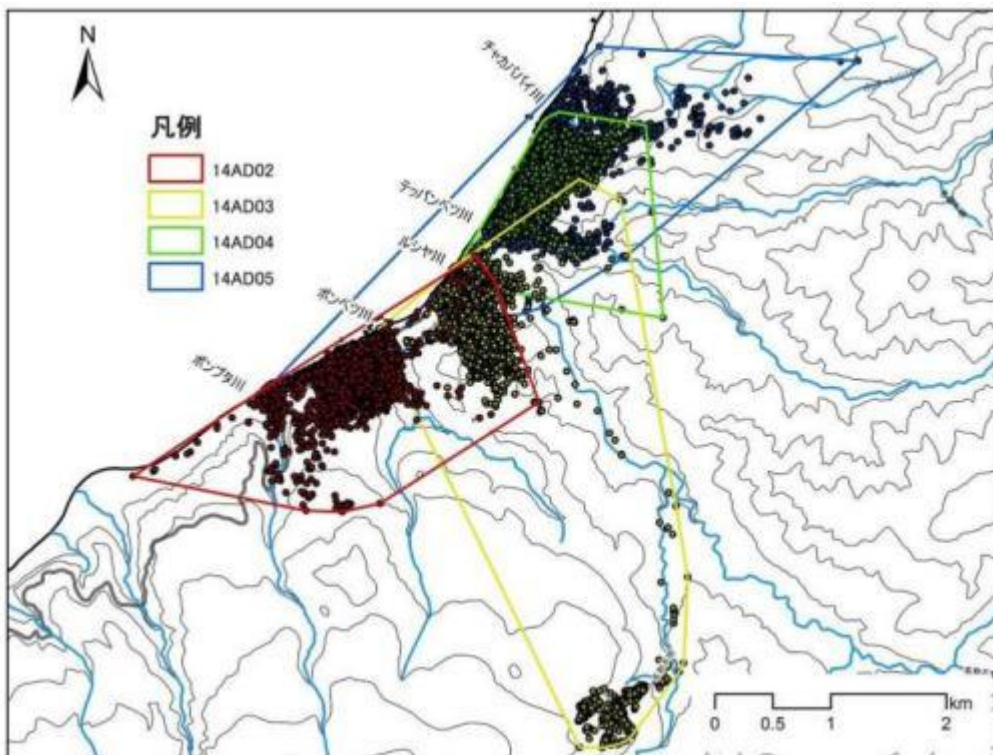


図 1-6-2. 平成 26 年 6 月に生体捕獲した 4 個体（14AD02～05）の測位ポイントと行動圏
（平成 26 年 6 月～平成 27 年 12 月）

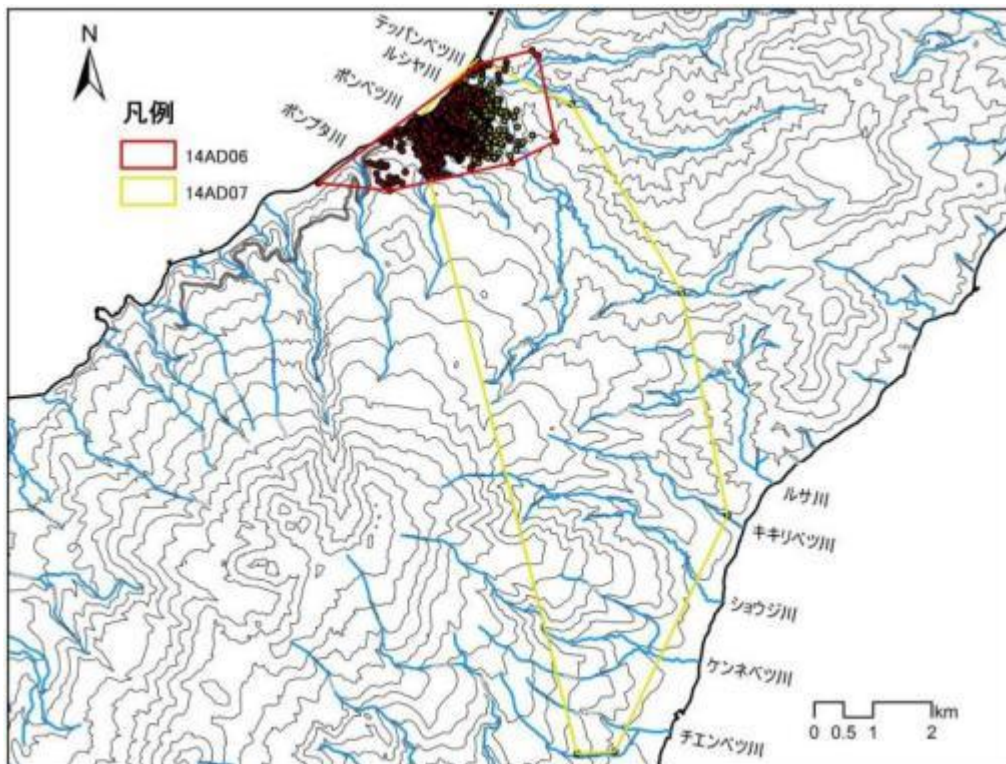


図 1-6-3. 平成 26 年 8 月に生体捕獲した 2 個体（14AD06～07）の測位ポイントと行動圏
（平成 26 年 8 月～平成 27 年 12 月）

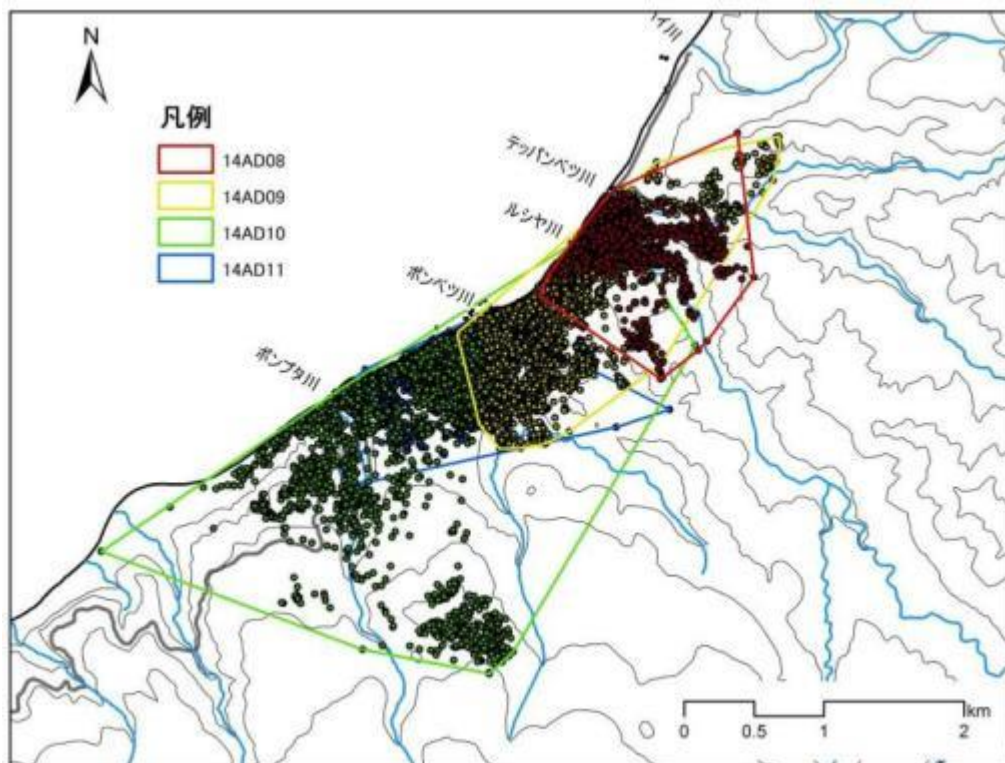


図 1-6-4. 平成 26 年 11 月末に生体捕獲した 4 個体の測位ポイントと行動圏
（平成 26 年 11 月～平成 27 年 12 月）

表 1-6-1. 個体別・月別の行動圏面積（平成 26～27 年）

ID	平成26年											
	1月 (km ²)	2月 (km ²)	3月 (km ²)	4月 (km ²)	5月 (km ²)	6月 (km ²)	7月 (km ²)	8月 (km ²)	9月 (km ²)	10月 (km ²)	11月 (km ²)	12月 (km ²)
14AD02	-	-	-	-	-	0.2	0.1	0.2	0.5	1.2	1.2	1.0
14AD03	-	-	-	-	-	0.2	0.3	0.3	0.3	0.7	0.2	0.4
14AD04	-	-	-	-	-	0.2	0.3	0.2	0.2	1.1	0.3	0.5
14AD05	-	-	-	-	-	0.4	0.5	0.4	0.3	1.2	0.6	1.8
14AD06	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.9	0.6	0.9	0.9
14AD07	-	-	-	-	-	-	-	0.4	0.3	0.6	0.7	0.9
14AD08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6
14AD09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8
14AD10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
14AD11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4

ID	平成27年											
	1月 (km ²)	2月 (km ²)	3月 (km ²)	4月 (km ²)	5月 (km ²)	6月 (km ²)	7月 (km ²)	8月 (km ²)	9月 (km ²)	10月 (km ²)	11月 (km ²)	12月 (km ²)
14AD02	0.2	1.2	1.0	1.1	1.2	1.1	0.3	0.3	0.2	0.6	0.3	0.4
14AD03	0.3	0.7	0.6	0.4	1.0	5.1	0.4	0.4	0.3	0.8	0.3	1.0
14AD04	0.3	0.2	0.6	0.6	0.5	0.7	0.4	0.2	0.3	0.6	0.4	0.8
14AD05	0.4	0.8	1.1	1.2	0.7	3.4	0.6	0.7	0.9	0.5	0.8	0.8
14AD06	0.3	0.8	0.8	0.2	0.4	2.5	1.1	0.5	0.4	1.5	1.2	0.8
14AD07	0.6	0.4	0.4	0.8	0.5	1.6	27.3	0.4	0.4	0.7	0.3	0.8
14AD08	0.2	0.1	0.3	0.5	0.3	1.0	0.4	0.3	0.2	0.7	0.3	0.6
14AD09	0.4	0.5	0.7	0.6	0.8	1.6	0.5	0.4	0.5	0.7	0.3	0.8
14AD10	0.3	0.9	1.2	1.0	1.0	6.0	1.4	1.3	0.8	1.0	1.1	0.5
14AD11	0.3	0.5	0.4	0.5	0.7	0.5	0.2	0.3	0.2	0.9	0.3	0.6

*行動圏面積が 1.0 km²以上に赤印、5.0 km²以上に緑印。

*平成 26 年 11 月末に捕獲した 4 個体（14AD08～11）では、捕獲月の行動圏面積を算出せず。

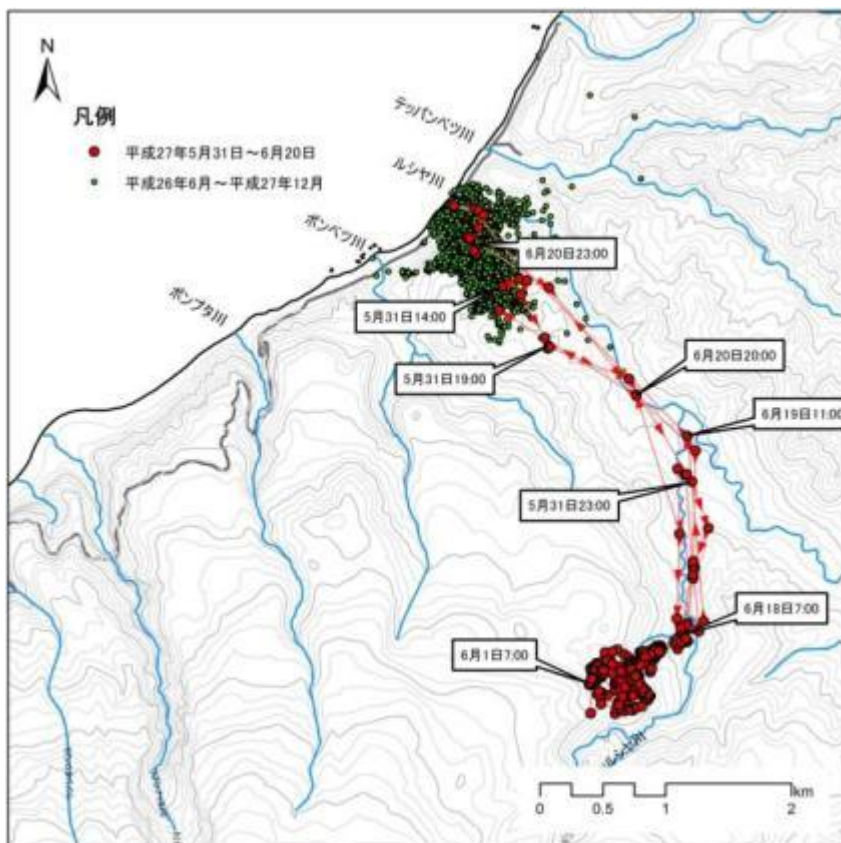


図 1-6-5. 14AD03 の出産期の中標高帯（標高 400～500m 付近）への一時的移動状況

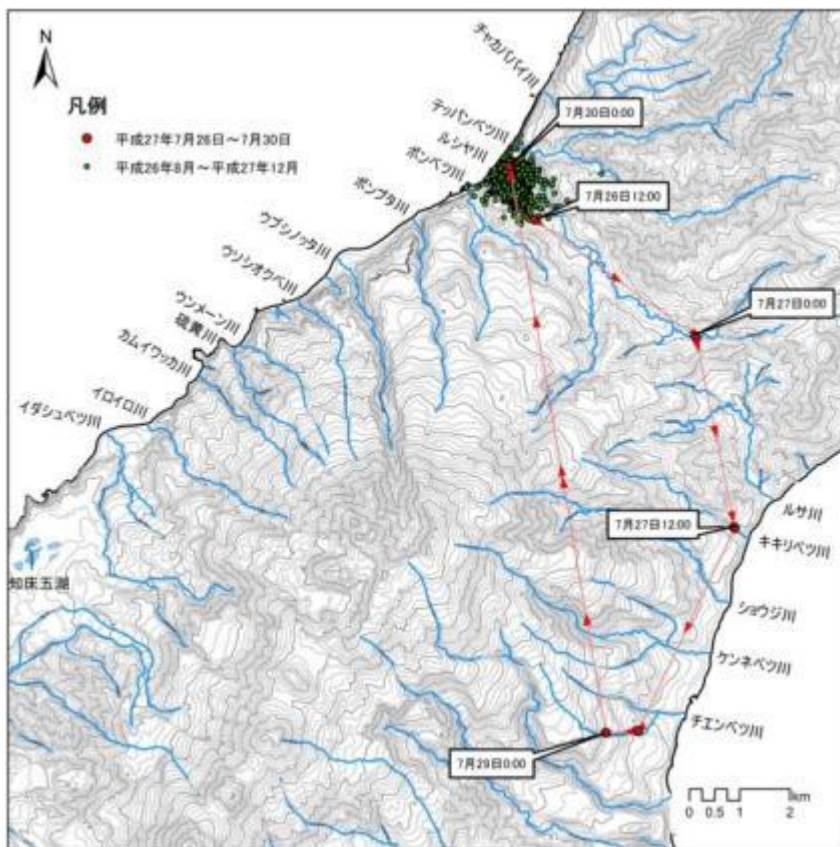


図 1-6-6. 14AD07 のルシヤ地区から羅臼町岬町地区までの一時的移動状況

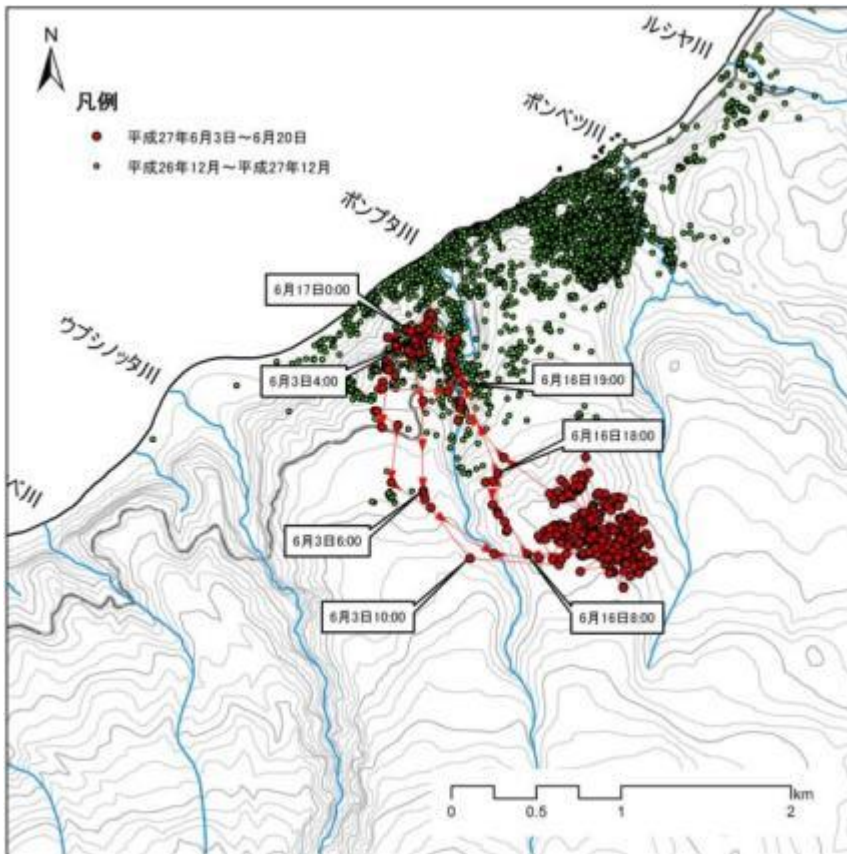


図 1-6-7. 14AD10 の出産期の中標高帯（標高 530m 付近）への一時的移動状況

* 等高線は 25m 間隔

3. まとめ

本事業で GPS テレメトリー首輪を装着した 10 個体のうち、13～18 カ月の調査期間中にルシャ地区外への移動が確認されたのは、1 個体（14AD07）のみであった。14AD07 は平成 27 年 7 月末の 4 日間、ごく短期間に羅臼側まで往復した。同個体が大きく移動したのはこの時のみで、夏の生息地と越冬地とを往来する、いわゆる季節移動とは異なる行動と判断された。そのため、14AD07 も現状では定着型の個体と推測される。

本調査の実施目的のひとつは、ルシャ地区とルサー相泊地区との間で個体の往来が存在するかどうかを明らかにすることであったが、本調査の結果は同地区間の個体の往来がそれほど頻繁ではないこと、無雪期にルシャ地区で観察されるシカの大半は定着型の可能性が高いことを示唆している。ただし、調査対象としているのは無雪期にルシャ地区を利用するシカのみである。越冬期に周辺地域からルシャ地区にシカが流入している可能性は否定できない。

4. 補遺① 平成 28 年 4 月以降の動向について (2016 年 6 月 15 日現在)

- 平成 26 年度に生体捕獲した 10 頭に加え、平成 28 年 5 月 10～11 日にメス成獣 4 頭を追加で生体捕獲し、GPS テレメトリー首輪を装着した。ルシヤ地区では現在、エゾシカのメス成獣計 14 頭の行動追跡が継続されている状況。
- 一部の個体で出産期に内陸へ行動圏を移動させる行動が確認されているが、大半の個体は、ルシヤ地区内の低標高帯で行動している。
- 平成 27 年 7 月末にルシヤ地区外（羅臼側）へ一時的に移動した個体（14AD07）は、平成 28 年も 6 月 3 日からルシヤ地区と羅臼側のルサ川上流域との間を 1 往復半し、6 月 15 日現在はルサ川上流域に滞在中。



図 1-6-8. 羅臼側に移動した 14AD07 の移動状況 (16/06/15 現在)

5. 補遺② ルサー相泊地区における季節移動調査の結果概要（平成 21～22 年度）

- ・平成 21（2009）年 3 月にルサー相泊地区で生体捕獲したメス成獣 20 頭に VHF 首輪を装着し、2 年間行動を追跡した（環境省事業）。同時期にメス成獣 2 頭に GPS 首輪を装着し、同様に追跡した（知床財団独自事業）。
- ・6 ヶ月以上の追跡に成功したのは上記 22 頭のうち 21 頭。そのうち、ルサー相泊地区外への移動が確認されたのは、4 頭であった。残り 17 頭（81%）は通年同地区内のみで行動する「定着型」であった。
- ・移動が確認された 4 頭の移動方向はすべて南北方向であり、東西方向（ルサー相泊地区～ルシヤ地区間）の移動は確認されなかった。
- ・上記の 4 頭のうち、越冬地～夏期生息地間の忠実な季節移動が 2 シーズン繰り返し確認されたのは 2 頭（9.5%）のみ。各個体の移動距離（直線距離）は約 5 km および約 15 km。
- ・残り 2 頭は 1 シーズンのみ、ルサー相泊地区から南方向の標津町の牧草地まで、約 50～60 km 移動。移動後、交通事故と狩猟で死亡。

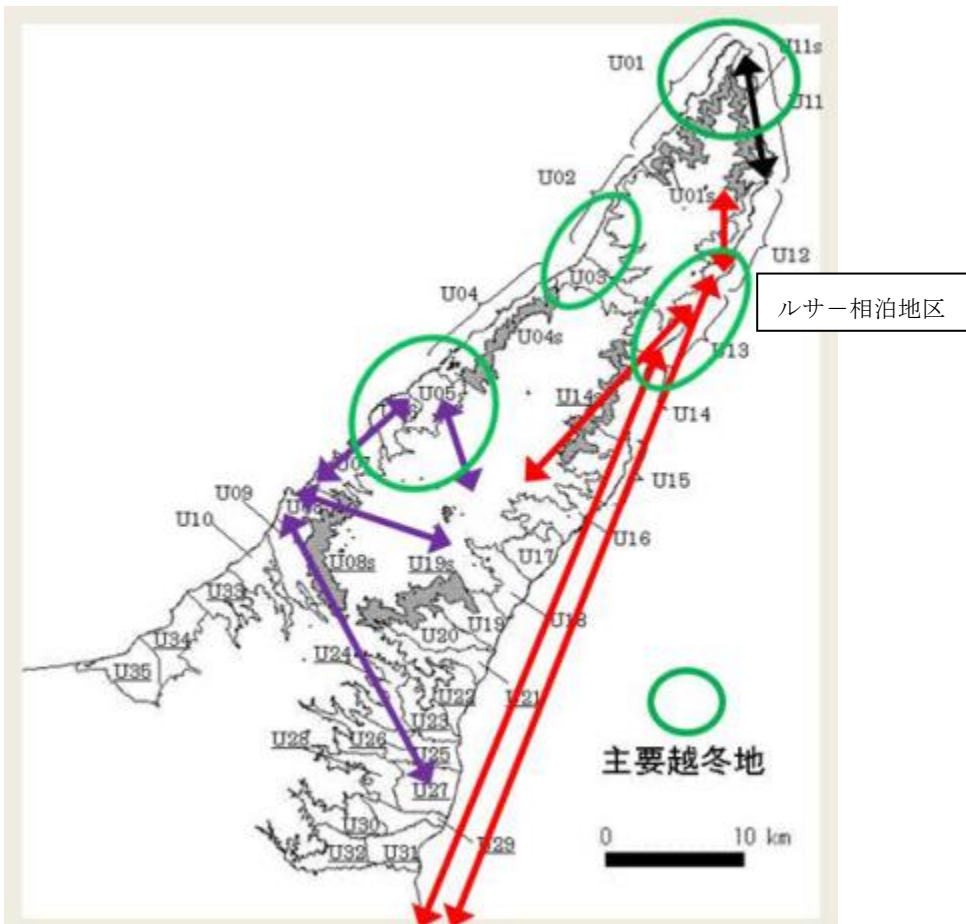


図 1-6-9. 知床半島におけるエゾシカの移動方向（過去に確認事例のあるもの）